

説得力を
高める

折々のことば 鷲田清一

【教科書
P.128
～
P.129
】

●引用の目的やはたらきを
理解する。

検印

学習活動に取り組もう

1 筆者はなぜ芥田愛菜さんの文章を引用したのだろうか、推論しよう。

1 次の文章を「折々のことば」と読み比べて、気づいたことや印象の違いをメモしよう。

「僕は文字といえばお経と『家庭の医学』しかない家で育ったので、初めて本を一冊読み通したのは十六の時でした。まるでその本が僕に向けて書かれたような経験でした。」

2 自分の「折々のことば」を見つけよう。

1 これまでの生活や読書経験の中から、納得した言葉や共感した言葉、自分の好きな言葉を見つけ、書き出そう。

あまんきみさんの本をこんなことが書いてあったんだ。

「うつくしいものに出会ったが、うつくしいけんめい見つけなさい。見つけたものが目には見えなくても、ちゃんと心で見つかるのよ。そうすると、うつくしい目のまえに見えるものがあるわ」

いい言葉だね。三太くんは、うつくしい言葉がいなくなってしまったの？ ああ、その言葉が本に書いてあったのか、わかるわーだね。

2 1で書いた言葉が好きな理由を書いてみよう。

3 選んだ言葉を題材にして、短い物語を作ってみよう。(「折々のことば」風に)

自分が好きな言葉とその理由

その言葉との思い出

学習の目標を振り返ろう

筆者が文章を引用したり、自分の体験を交えたりすることで、どのような効果が生まれているか説明しよう。

三太くん
いいものをいろいろ見ると、やっぱり見つけなきゃダメなんだ。あまんきみさんの言葉は、そのいいところを教えてくれている。うーん。
他のことでも同じじゃないかな。教えてもらったので、知ろうとしたりしない、ちゃんと理解するまではできないんだって。納得したから覚えてるんだよ。

省子さん
自分が出会った言葉が「うつくしい」と思ったのか、「うつくしい」時に納得したり感動したりしたのか、「な」を書いたり思い出したりしてみよう！

説得力を
高める

宝探してみたいに本の世界へ入っていきま

芦田愛菜

「教科書 P.130～P.136」

●説明の仕方を考える。

検印

全体の構成を理解しよう

本を読むのが好きな理由 その一 「初め～132・3」	「なんで、そんなに本が好きなの？」 …「まず一つわかっていること」 ← 「活字から自分の想像で物語の世界をつくりあげて」 ける。
本を読むのが好きな理由 その二 「132・4～133・1」	「そしてもう一つ」 …「自分とは違う誰かの人生や心の中を知ること」に、 すごく興味がある。 ← 「本を読むたびに」自分の中にはない「発見がある」。
「おすすめの本は？」と 聞かれても…… 「133・2～134・7」	人それぞれの見方や考え方が …ものすごく考えてしまう。 ← 「自分自身が惹かれて選んだ本」が『運命の一冊』にな ることが多いんじゃないか」と思う。 ← 「本がない人生なんて考えられな」い。
私と本のこれから 「134・8～終わり」	← 「大人になった自分」にも「本が好きでいてほしい」 と思う。

文章の理解を深めよう

筆者の「読書の楽しみ方」や「本との出会い方」をまとめよう。

1 筆者の「読書の楽しみ方」を捉えよう。

- 1 筆者が「なんでそんなに本が好きなの？」(130・5)という問いに対してあげている一つの理由は何か。次の中から選び、記号で答えなさい。
- ア ぬいぐるみやゲームと同じおもちゃみたいだから。
 - イ 小さい頃から本が大好きだから。
 - ウ 自分の想像で物語をつくりあげていく楽しさがあるから。
 - エ インターネットで調べることと答えがわかるから。

2 なぜ本が「入り込むまで最初はちよつと読み進めにくい」

(131・10)のかを説明した箇所の最初の五文字を、本文中から抜き出しなさい。

漢字・語句を確認しよう

1 次の——線部の漢字は読みを、カタカナは漢字を書きなさい。

- ① 入り込む余地 [] がない。
- ② もう日が暮れるコロ [] だ。
- ③ そのミリヨク [] に逆らえない。
- ④ その芝居 [] は大げさだ。
- ⑤ 擬似 [] 的に再現する。
- ⑥ 答えに詰 [] まる。
- ⑦ 頭の中に声か響 [] く。
- ⑧ 直感 [] を信じて行動する。
- ⑨ その瞬間 [] を逃さない。
- ⑩ 黙々 [] と作業を進める。

3 筆者が「なんでそんなに本が好きなの？」(130・5)という

- 問いに対してあげている「もう一つ」(132・4)の理由は何か。次の中から選び、記号で答えなさい。
- ア 小さい頃からお芝居の仕事をしていて、いろんな作品に出演する機会があるから。
 - イ 本には自分の人生だけではできない経験や自分に考えつかないような発想が詰まっていて、発見があるから。
 - ウ 「自分とは違う誰かの人生や心の中を知ること」に対して、あまり興味もてないから。
 - エ 本を読むことは、お芝居で誰かの人生を演じることから距離を置くことができ安心するから。

4 「自分とは違う誰かの人生を知って感じる」ことができる

(132・10)のことを、別の言葉で言い換えた表現を、本文中から抜き出しなさい。
